

第12期 環境市民会議（第4回） 議事要録

開催日時	令和5年12月19日（火） 18時30分～20時00分
場所	武蔵野市役所811会議室
出席者	鈴木委員長、小川副委員長、安藤委員、石射委員、上田委員、小餅委員、竹嶋委員、藤乗委員、白田委員、吉澤委員、大塚委員
内容	1 議題 (1) 「気候危機打開！むさしの市民エコアクション」について（報告） 2 議題 (2) 第12期環境市民会議の総括（報告）

1 議題

(1) 「気候危機打開！むさしの市民エコアクション」について（報告）

発言者	発言要旨
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクションは既にHPで公表されている。この会議の意見が直接反映されるものではないが、本冊子を用いて啓発を進めていくにあたり参考とするため、啓発の方法等を含めて広くご意見をいただきたい。 ・非常に良く出来ている。環境問題は自分にできることが限定的で無力感を持つこともあるが、自分にできること、関心を持てることが受け取りやすい内容となっている。また、SDGSのような大きな括りにせず、市民目線で衣食住の生活に焦点を絞ったこともよかった。 ・活用方法について、副読本としてもよい。
A委員	対象となっている店に共通するラベルなどを貼り、この店はこのアクションに取り組んでいるという紐づけができるとよい。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一家庭ではなく一人当たりの目標値が記載されているため分かりやすい。 ・ランキング形式の表示は、これから環境に対する意識を高めていく人が、優先順位をつけて取り組みやすい。
C委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ランキングなど市民の声の反映がされているため共感して取り組める。 ・実際に行動して効果がどれほど出るか、アクションを表彰する取り組みを行ってはどうか。
D委員	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野市ならではの例で、当事者意識が持てる。 ・ただ配布するだけで終わらず、小中学校の活動で自分たちにできることを考えるグループワークを行うなど、活用を進めてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・1月15日から全戸配布を予定している。 ・活用方法としては、施設見学でエコリゾートに来館する小学生に紹介する、総合学習で地域のことを学ぶ時間に取り上げてもらう、エコリゾートのプログラムで利用するなど、考えていきたい。
E委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンなどで説明会を開催してはどうか。全戸配布しても読んでもらえないと残念である。 ・次のステップとして、取組のフォローを進めてもらいたい。例えば、市内に量り売りの専門店がない、市役所に電気自動車の充電施設がない、食べ残しの持ち帰りが特にチェーンの飲食店で不可である、テイクアウト時にプラスチック容器が使われ持参した容器の使用が認められない、などが課題に挙げられる。 ・P28 太陽光パネルを設置した場合のCO2削減量は、生産に係る排出量まで考慮しているのか、単に使用電力のことなのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省のデコ活のデータを引用している。内訳は示されていないが、前提として「3.5kWの太陽光パネルの設置による発電量分のCO2排出量が削減されると想定して試算」されているため、生産に係る排出量までは考慮していないと思われる。 ・東京都の試算では、4 kWの容量の太陽光発電設備を設置した場合、30年間の収支では159万円のメリットがあるとされている（初期費用及びパワーコンディショナーの交換を含め、現行の補助金を活用した場合）ため、年間約5万円のメリットがあると考えられる。
F 委員	<p>今年は猛暑でカマキリが少ない、水クラゲが夏以降も多い、海水温が上昇しているなど、生きものを通して環境の変化を実感している。本冊子に載せるべきかどうかは分からないが、身近な環境の変化に気付く感覚を持つことも大事であるため、アクションに結び付けてもらいたい。</p>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメントの構造がよく考えられている。P15-16の長期的・定量的なビジョン及び市民一人当たり換算した目標値は、環境市民会議の場で明示を要望してきたものであり、今回掲載されたことを評価する。 ・その反面、情報量が多く読み解くために精神的なエネルギーを要することが課題である。 ・量り売りやプラごみ削減などの話題が出たが、この環境市民会議は、事業者団体が市民と一緒にどのような行動に落とし込んでいくか話しあう場として適当ではないか。

(2) 第12期環境市民会議の総括（報告）

委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さまから今期の振り返りを一言ずつご発言いただきたい。 ・第12期は計画の策定や改定がなかったために、主な議題が年次報告、気候市民会議及びエコアクションへの評価で、本会議体が主体で動いたことの成果がなかった。 ・武蔵野市は最上位計画である長期計画の下に多くの個別計画があるが、それぞれが縦割りで横の見通しがないと感じている。環境市民会議で審議する年次報告書「武蔵野市の環境保全」の中には、気候変動、ごみ、緑化、生物多様性、生活環境など多様な環境が含まれている。それらを包括した、緑環境系で大きく括った会議体であってもよいのではないか。その方がミッションが多くなり、ここでの成果が施策に還元されるはずである。 ・そのためには、個別計画をどう捉えるかという議論も必要となるかもしれない。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物、ごみ、プラスチック問題など、地球環境は全て繋がっている。もう少し具体的な課題を議論できるとよい。 ・エコアクションにもヒントがあるが、市民として何ができるのか、考え得る小さなアクションをもっと見つけていきたいと思っている。
A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗を構えているため、環境負荷低減のためのヒントを持ち帰るというスタンスで参加していた。最終的にエコアクションで具現化されたものを見て、こういうことかと理解した。 ・自治体の会議体いくつか参加しているが、武蔵野市環境市民会議は、知見を持った方が参加して議論がしっかり行われており、良い会議体だと思った。
G 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所から委嘱されて参加している。 ・9年前からファッションショー事業を実施し、5年前からは吉祥寺駅前及び井の頭公園で、サステナブルファッションを広めるイベントを開催している。 ・環境市民会議に出席したことで、少しずつ環境に対する意識が高まったと思っている。また、エコアクションは周囲の人に広めていきたいと思った。
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ企業として参加。会社としてはクリーンなエネルギーでの発電に引き続き取り組んでいく。 ・エコアクションには省エネやEV車の活用など電気に関する内容が多く取り上げられており、この機会を捉えて、当社の取組みをもっと市民の皆様へ周知したい。 ・委員の皆様や他企業の違う目線での取組み、ご意見を聞くことができ、学びの多い会議だった。

B委員	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー企業として参加。エネルギー事業や最新の取組みについて、会議の中で紹介できなかったことが反省点である。また、環境とレジリエンスは切っても切れないため、エネルギー企業として環境面とあわせレジリエンス性も考慮した情報をもっと訴求していきたい。 ・エコアクションで、あらためて武蔵野市民の環境に対する意思の強さを実感した。
D委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民や若者の視点で議論に参加できた。会議での意見が行政資料に反映されると、自分が関わったことが感じられて嬉しい。 ・気候市民会議のような、市の取組みに市民が参加できる機会がもっと増えるとよい。興味を持っている人にもいない人にも、環境に関わるきっかけを市から与え続けられれば、みんなで良くしていこうという意識が生まれ、もっと良くなっていくと思う。
H委員	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の専門家である委員の皆様の意見を聞いたり、行政資料が作られる過程を知ることができて、楽しかったし勉強になった。 ・好奇心があるので今後もこのような会議に参加できればと思う。
E委員	<ul style="list-style-type: none"> ・会議への参加が環境基本計画などを読む機会になった。 ・先に話した次のステップに行くようなことを、クリーンむさしのを推進する会としてもエコアクションを利用して行いたい。団体で説明会などを行いたいため、環境政策課に別途、相談する。 ・市の施策の他のジャンルでもこのような冊子があるとよい。
I委員	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクションを評価いただきありがとうございます。いかに手に取って見てもらうか、時間をかけて議論を重ねて作った。この評価が職員の励みになるし、行政職員としてよい経験になった。次のアクションについても貴重なご意見とヒントをいただいたので、事務局で検討していく。 ・先ほど委員長にご指摘いただいたとおり、今期の議論は年次報告がメインとなり、横断的な視点が欠けていたこと、様々な専門家と市民委員の皆様のご意見を活かせなかったことが反省点である。次期は会議の在り方についても相談し、議論する。 ・環境に対する市民の方の気付き、行動変容を意識しながら、引き続き市の施策を検討していく。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・議論としては、武蔵野市環境市民会議の位置づけ、ミッションをどう設定するかということであるが、この会議体そのもので位置づけを規定するのではなく、あくまでも市が規定するものである。每期、ミッションと位置づけをはっきりさせる必要がある。 ・第3、4回の会議が対照的であった。第3回の年次報告書は各部署の施策を寄せ集めたもののため、横ぐしの施策が見えず、論点が発散した。第4回のエコアクションは分かりやすく一つのストーリーになっており、市民と事業者と一緒に議論できる内容だった。ミッションと位置付けもさることながら、どういう資料を提示するかが重要である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・やはりこの会議体のミッションとして、緑・生きもの・ごみ・エネルギー・生活環境・エコリゾートの運営などは、統合した方がよい。 ・年次報告はルーティンになっているが、事務手続き的である。 ・専門家と意識の高い市民を集めているため、具体的な意見を反映させる受け皿が欲しい。「報告」はそのまま読めば分かるので、報告について議論するよりも、市の環境に関するミッションを設定し、それに対して事業者として市民としてどう考えるか、意見を伺ったりレクチャーを受ける機会を設けたらよいのではないかと。
事務局	<p>難しい宿題であるが、それぞれのお立場でよりよい会議体になりたいという思いは嬉しく、真摯に受け止めていければいけない。時期に向けた課題としてしっかり検討する。</p>